

平成 22 年 1 月発行 発行者 砺波カイニョ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹
事務局 富山県砺波市表町 14-10 電話 0763-33-6588 天野一男建築工房内

富山県功労賞受賞 懇親会に28名 県農林水産部次長、砺波市長からお祝いの激励を

12 月 4 日夜、散居村ミュージアム交流館でカイニョ倶楽部富山県功労賞受賞記念懇親会を開いた。会員等 28 名が参加し、楽しい会となった。来賓に富山県農林水産部次長祖川信一氏、砺波市長上田信雅氏、砺波農林振興センター次長井上 学氏が出席された。天野一男事務局長が進行をつとめ、冒頭、柏樹直樹代表幹事が挨拶した（別項）

来賓の祖川信一氏は、「子どもの頃の散居村で遊んだ思い出が懐かしく、この貴重な景観を積極的に維持していくことは、私たちの使命だ。カイニョ倶楽部のさらなる活動発展に期待し、応援したい」と。

また、上田信雅氏は、「中京、関西からの迎え入れの柱として散居村とカイニョをしっかり守っていかねばならない。この散居村、庄川水記念公園、増山城等を守り、住みやすさや環境をメインとして提供できる街づくりをみんなで作っていききたい。特に散居景観の中心をなすカイニョとの関わりを理解し保全しあう体制をつくりたい。カイニョ倶楽部はもっと行動し意見も出してほしい」とそれぞれ激励の言葉をいただいた。

乾杯の音頭を井上 学氏が務め、懇親に入った。天野事務局長が寄せられた祝電を紹介した。参加した会員はそれぞれ楽しく意見交換しあった。平成 22 年予定の屋敷林サミットについて期待や思いが話され、その中味や財政。県外者の案内、そのコース等についても個々で話題となって盛り上がった。来賓にも希望や安曇野の内容もふくめ、前向きな意見も交わされた。盛り上がった中で中締め音頭を高田隼水さんに。8 時半過ぎに散会した。この模様を北日本新聞が次日報道した。また、当日、13 年間の活動記録も参加者に配られた。

よせられた祝電

上田信雅（市長）、寺井幹男（県部長）、島田俊弘（県課長）、河合常則（参議）、橘慶一郎（衆議）、山田俊男（参議）、森田高（参議） 広野ただし（参議）

- ・他に浅香五十鈴さんからメッセージ
- ・参加されなかった会員から葉書に沢山の言葉が寄せられた

柏樹代表幹事の挨拶

県功労賞をいただき、集いを準備した。沢山の御参加に感謝。
また、お忙しい中、御来賓として、県農林水産部次長、砺波市長、砺波センター次長におこし頂いた。

砺波カイニョ倶楽部をつくり、13 年目に。カイニョとの共生をめざし設立し、活動してきた。人様から認められる事なのか、カイニョが喜んでいるのか、いつも反省しながら歩いてきた。人様、社会という面から、今日の県功労賞をいただいたということは少しは認められたということでしょうか。

カイニョからは、どうなのか、全くというところではないかと思われる。
今日の集いに二つのことを提起したい。

- 1) 屋敷林サミットをやれないかとの申し入れを受けたことにどう応えるか、今、ミュージアム、市、県の皆さまに相談し、前向きに受け止めたい思いだ。
- 2) 散居景観保全維持事業への期待とクラブとして何ができるのか、大いに考える時ではないか。

一段とカイニョと対峙できる会になりたいと思う。



砺波農林振興センター次長 井上氏の発声で乾杯



富山県農林水産部次長 祖川氏の挨拶



砺波市市長 上田氏の挨拶



参加者の集合写真

「カイニヨ(屋敷林)」を、みなおす時

柏樹直樹

8千戸のとなみ散村、カイニヨに包まれた孤島の姿が特長だ。規模は全国でも類をみないといわれている。

ところが、住民のカイニヨに対する関係は冷たく消極的、カイニヨの本数、質の低下が何よりの証明だ。

しかし、平成16年の台風の時、倒木本数の約70%の本数が次年度に植えられたこと、住民アンケートで「カイニヨが必要」との回答が82%あること等に、期待のもてる面も潜む。

とにかく、揺れ動く事態を直視して、カイニヨ再考のエキスを提起し、住民合意の共同目標を持つことだ。あわせて、日々のカイニヨ管理やリスクの実情を、地域全体で受け止め、負担し、協力しあう制度や体制を考える事である。

カイニヨは人をもとりこんだ生物の「すみか」である。生物はいずれも一緒に生きるためには、「出しあい」「負担」がともなう。カイニヨにのみ、実利がなければ全て否定することは、人間の我がまま、勝手ではないか。

又、カイニヨは競争、共同、忍耐の組み合わせさった象徴だ。その中や周りで育った人には、温かくしなやかな心情がそなわる。人の心づくりにカイニヨの生き方が深く作用しているのである。

そして、カイニヨは長い先人の自然との戦いの中でつくられた木と人の共同体の形で、カイニヨ文化をつくり、風土となった。

それを昨今、少しの利便をつくり、自然を制御できたことにうぬぼれ、カイニヨを否定するということは、本当の自然を知らない粗末な人間のおごりではないか。

今、準備中の「2010となみ屋敷林フォーラム」が、カイニヨと人間の新しい共同関係をつくり、カイニヨ倍増への約束のきっかけとなる事を願う。

それは必ず、今世紀最大の地球が喜ぶ「となみ事業」として次代に引き継がれるものであるはずだ。

<話し合われている計画案>

- ① 目 標 屋敷林を再考し住民合意を目指す
- ② テーマ 「2010となみ屋敷林フォーラム」
砺波、南砺市、小矢部市、高岡の市民を中心に屋敷林を考えあう集い。
- ③ 日 時 平成22年10月23日(土)
- ④ 場 所 庄川学習センターホール(砺波市庄川町青島)
- ⑤ 内 容 基調講演。事例報告。ディスカッション
